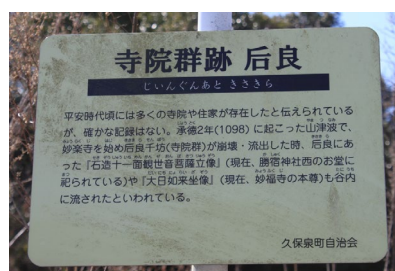


番号	1	寺院群跡 きさきら 后良		
所在地		佐賀市久保泉町川久保		
災害別		承德2年（1098） 水害（山津波）		
目的別		伝 承	建立年	不 明
特記事項				



佐賀市久保泉町の川久保交差点を県道51号線沿いに背振方面に進むと、途中左手に「寺院群跡 きさきら 后良」と記した説明板が見えてくる。

説明板には、「平安時代には多くの寺院や住家が存在したと伝えられているが、確かな記録はない。承德2年（1098）に起こった山津波で、妙楽寺を始め きさきら 后良 千坊（寺院群）が崩壊・流失した時、きさきら 后良 にあった「石造十一面観世音菩薩立像」（現在、勝宿神社西のお堂に祀られている）や「大日如来像」（現在、妙福寺の本尊）も たにうち 谷内に流されたといわれている。久保泉町自治会」と記されている。



みて、寺院群の跡らしきものは何もないように見えた。

また、承德2年の山津波について「佐賀県災異誌」（S39, 4, 30 佐賀県防災課発行）等の

この一帯は、巨勢川の上流部にあたり、両側に山が迫り、近くに土砂採石場があるなど土砂災害が発生しやすい環境にあると思われる。しかし、900年以上も前の出来事であるためか、周辺に寺院の遺構等は見当たらない。説明版から奥に続く急な道をのぼったところには、耕作放棄地のような跡やそれを囲む石垣があるの

資料で検索したが、調べた限りでは、そうした記録を見つけることは出来なかった。

なお、説明版にある妙楽寺という地名は、国土地理院の地図上に記されており、また、川副町早津江にある妙楽寺について、「川副町誌」（昭和 54 年発行）によれば、その沿革は「もと行基菩薩が、薬師如来を本尊として、現在の久保泉町妙楽寺部落に建立したといわれる。寺屋敷、堂裏などの地名や、座禅の石が残り、^{きさきさ}后^{らぎ}浦（原文ママ）千軒といわれた大部落が山津波で寺もろともに流されたという。」と記されており、当時の山津波のことが記されている。ただ、文中の、「寺屋敷」、「堂裏」という地名や「座禅の石」などは確認できなかった。

また、「石造十一面観世音菩薩立像」（通称、^{きさきさ}后^{らぎ}良^か観^し音^{ゆく}）は、勝^か宿^{しゆく}神社の西、小川を挟んだ対岸のお堂に祀られており、佐賀市の重要文化財になっているが、お堂前に建てられた説明版や佐賀市のホームページなどによると、造立銘に天正 13 年（1585）と刻まれているとのことで、山津波伝承の時期とは大きく異なっている。このため、文化財の説明では、山津波のことは触れられていない。

このように、はっきりとした遺構等は見つけることが出来なかったが、山津波の伝承があるという事は、過去にそうした災害が発生したことを伝えているものと思われる。伝承を裏付けるように、佐賀市のハザードマップで周辺は土砂災害特別警戒区域に指定されている。



佐賀市重要文化財「石造十一面観世音菩薩立像」



国土地理院電子国土 Web



川副町早津江 「妙楽寺」